

泌尿器科のご紹介

泌尿器科 医長：柴崎 昇

当科では2014年6月よりダヴィンチを用いたロボット支援腹腔鏡下手術（ダヴィンチ手術）を導入しています。ダヴィンチ手術のメリットとして、①体内に挿入するロボットの「手」が多関節であること、②術者は3D立体画像モニター下に手術を行えること、③術者の手ブレ防止機能がついていること、④術者はコンソールシートで座位にて安定した姿勢で執刀が可能であること、が挙げられます。このため、従来の開腹手術や腹腔鏡下手術と比較して、繊細で正確な操作が可能となり、出血量の減少、周術期合併症の減少が期待されます。我々にとっても、患者様にとってもダヴィンチ手術のメリットが非常に大きいと考えています。

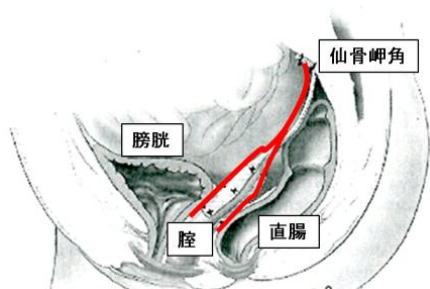
2014年に導入されたロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術は今年9月までに308例を施行しました。その後、保険適応の拡大により、2015年より腎細胞癌に対するロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術、2017年より膀胱癌に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術、2020年より骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定術、および腎盂尿管移行部狭窄症に対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術を導入、これまでにそれぞれ76例、33例、11例、11例行っております。



ダヴィンチ手術の様子

新しいロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定術は、膣からの臓器の脱出を認める骨盤臓器脱（膀胱瘤、子宮脱、直腸瘤）

の修復手術です。脱出のリードとなる子宮体部を摘出した後に膣と膀胱、膣と直腸との間を剥離して膣側に医療用のメッシュ素材を固定し、これを仙骨岬角と呼ばれる部位に吊り上げて固定することにより、膣からの臓器の脱出を修復する方法です。従来の腹腔鏡下手術と比較して、ダヴィンチ手術では、体内の狭いスペースでの縫合・運針操作が容易に行うことが可能となり、根治性が高く再発率の低い術式となっております。



現在、泌尿器科常勤医師は5名で、うち4名がダヴィンチ手術の術者資格を有しており、前立腺癌、腎細胞癌、膀胱癌、骨盤臓器脱、腎盂尿管移行部狭窄症に関しては積極的にダヴィンチ手術を施行しています。またそれ以外の泌尿器科疾患についても、より低侵襲でより根治的な治療を行うよう日々精進しております。全スタッフが高い専門性と豊富な知識に基づいた全人的医療に取り組んでおりますので、泌尿器科の病気で心配な患者様は気軽に御相談ください。また、これまででも開業の先生方から多数の患者様を紹介いただいておりますので、今後も御理解をいただけました先生方から対象となる患者様のさらなる御紹介をいただけましたら幸甚に存じます。



泌尿器科スタッフ

栄養部技師長就任のご挨拶

栄養部技師長：松本 恵子



2021年4月より栄養部技師長に就任いたしました松本恵子です。栄養部は、入院患者様の栄養管理と給食管理、栄養指導(外来・入院)、を担っている部門で、患者様の栄養をサポートする事が主な業務です。

昨年度より人員も増え、以前から活動している栄養サポートチームや心臓リハビリチーム・糖尿病チームに加え、今年の1月よりICUにおいて入室後早期から経腸栄養を含めた栄養管理を実施。6月からは摂食嚥下チームにも参加をしており、より多職種連携で積極的な栄養管理を行う体制になりました。



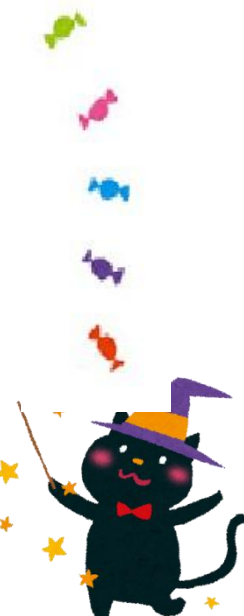
また、来年から開始される全診療科対象の入退院センターに管理栄養士を配置予定としています。ここでは

入院前にアレルギー食材を聞き取り、入院後の食事を安全に召し上がっていただけるように対応いたします。また、周術期入院予定の患者様に対しては医師の指示の元、術前の低栄養患者様や肥満患者様への栄養管理を行い、入院後は術後経過が良好になるよう病棟担当栄養士と連携して栄養サポートを行います。

これからも患者様の生活や思いに寄り添った栄養指導を行い、入院中の食事を楽しんでいただけるように給食管理を実施し、ご自宅でも栄養管理が実施可能なサポートを提供出来るように栄養部全員で研鑽をしますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。



栄養部スタッフ





大腸 CT 検査技術認定施設および 大腸 CT 検査認定技師の資格を取得いたしました

放射線部 大腸 CT 検査認定技師

副技師長: 山内 ^{やまうち} 聡 ^{さとし} 主査: 野々山 ^{ののやま} 裕己 ^{ひろき}

平素より地域の皆様には当院の地域医療連携にご理解・ご協力いただきまして感謝申し上げます。

大腸 CT とは、大腸に炭酸ガスを注入し腸管を膨らませた状態で CT 撮影を行い、3次元画像を作成し大腸の病気を診断する検査です。大腸内視鏡（大腸カメラ）検査に比べ飲む下剤が少なくすみ、体への負担も少ないのが特徴です（検査時間は10～15分です）。大腸 CT 検査では、特別な解析装置を用いポリープなどの病変を大腸内視鏡（大腸カメラ）と同じように描出します。診断精度は内視鏡に匹敵と言われていす。腹部の手術歴から癒着があり大腸内視鏡（大腸カメラ）が入りにくい方や検査に対する羞恥心がある方、痛みが心配で大腸内視鏡検査を受ける決心がつかない方にもおすすめです。

現在、日本のがん死亡原因のうち大腸がんは女性の部位別がん死亡者数第1位、男性では第3位になっています。大腸がんは自覚症状が少ないため、早期発見のために定期的な検査が欠かせません。また早期に発見、治療すれば高い確率で完治するとされています。当院では2015年から大腸 CT 検査を開始し2016年からは県内では初めての検診も導入しており、現在は年間で約500件の検査を行っています。

今回、大腸 CT 検査を安心して受けていただくためにエビデンス（科学的根拠）に基づいた標準的な検査を実施できる施設基準を満たし、技術と知識を有する技師のいる施設を目指して、このたび認定施設および認定技師の資格（2名）を取得いたしました。

コロナ禍ではありますが、少しでも皆様のお役に立てるよう日々技術の研鑽に努めてまいります。この機会に大腸 CT 検査を受けてみようとお興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、地域の先生方にご相談の上ご検討いただけましたら幸いです。適切な感染予防対策をしてお待ちしております。



大腸 CT 検査スタッフ



2年目研修医 note



- ①名前：田中 邦和（たなか くにかず）
- ②出身大学・卒業年度：滋賀医科大学 令和元年度卒業
- ③趣味・特技・好きな時間の過ごし方など：
コーヒー、料理、食器、照明器具など。生活の工夫が趣味です。
- ④医師を目指した理由：手に職をとの思いから。
- ⑤どんな医師になりたいですか？：
関わる人の人生に少しでもよい影響をもたらすような医師。
- ⑥研修医2年目の目標：教わる立場から業務へ貢献できる立場へ。
長期的な目標を持って研鑽を。
- ⑦地域の先生方へのメッセージ：
未熟ながら精一杯地域医療に貢献させていただきたいと思っています。
どうぞよろしくお願いいたします。



MSW

アイコさん



作・画 まきろん



クイズの答え：1 ページ目 写真 枠/2 ページ目 写真内/3 ページ目 左下/4 ページ目 2年目研修医 note 内 左下/MSW アイコさんタイトル内 ※マスクは外して描いています。

9月17日より地域医療連携室は1階へ移動いたしました。詳細は次号にてお知らせいたします。

地域医療連携室より

たっぴーの一言

「大変と言うことは、大きく変わると言うことです」



まきろん

9/17 地域医療連携室が引っ越しをしました。

今までと違う環境の中どうしたらご紹介患者様をスムーズにご案内できるか、ご紹介予約のお返事をお待たせせずに出来るか等、日々メンバーと話し合いを重ねています。

一から作り出すということは大変ですが、より一層信頼していただける市立大津市民病院 地域医療連携室になれるようチャンスと捉えて一同邁進して参ります。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室：立川 絢子

